

～～第7745回～～

策ヶ岳

～H27. 8. 29-31～

今回は南アルプス屈指の難コース・策ヶ岳に2泊3日の行程で挑戦した。

1日目:前日からの曇・雨の予報にもめげず、静岡を2台の車に分乗し7:00出発。畑薙ダムにて12:00発のリムジンバスに乗り換え50分程で榎島ロッジに到着。早速受付を済ませて3室に分かれて一息入れる。明日は暗いうちから登山道に入る予定なので、道に迷わない為にも30分程登山道の下見をしておいた。夕食を済ませてからは、明日は12時間も歩く予定だから早めに床に就いた。

2日目:昨夜の降雨を気にしながら3:00起床。ヘッドランプを頼りに登山口に向かう。滝見橋を渡り登山道に取り付く。雨は相変わらず容赦なく降り続き、狭く急な登山道を鉄塔へと向う。岩と落葉の歩きにくい箇所をひたすら登るが、暗いので登山道のテープを見つけるのが大変だ。小休止して朝食をとる。少し明るくなったものの樹林帯の薄暗い中をひたすら登り続け、一息つける辺りでリーダー達が今年の7月に「策ヶ岳での遭難者捜索の時にテントを張った場所」の説明を聞く。そのすぐ先に「榎島まで120分・策ヶ岳まで270分」の標柱があった。標柱から15分後にまずは最初の渡渉。水量はさほどではないが滑り易く気を抜けない。その後も幅30cm程の狭い、しかも谷側に斜めになったトラバース登山道を注意しながら進む。その後もロープ・はしご・岩場・倒木・4ヶ所の渡渉、そしてやっと6ヶ所目の上倉沢源流(幅20m)に到着。草地には秋のトリカブトが一面に咲いて、山は秋の気配でいっぱいだ。ピンクのリボンを目印に対岸へ渡り草地を登ると倉沢のテント場がある。涸沢を登り所々明るい林をさらに登ると「榎島への下降点」に着く。一息入れて歩きにくい登山道をヤブこぎのように分けて40分、やっと目的の「策ヶ岳」山頂に着いた。あいにくの天候で何も見えないが、登頂の喜びを共にして下山にかかる。もう雨のことも気にならないほどになっていたが、衣類はびしょりで風が吹くと寒くなり低体温症がよく解かる。下山は登りより慎重にと神経を使いながらひたすら来た道を折り返す。沢の水かさも一気に増えて10人の渡渉が終わるまでには時間もかかるがより慎重に歩く。疲れも次第にピークに達してはいたが、会員の心は「達成感」でいっぱいだったと思う。歩いて歩いて、歩き続けて鉄塔の辺りに来た時、やっと皆の顔に笑みがでてきた。ロッジ受付の関係でリーダーが先発で離れ、後をサブリーダーがしっかり引き継ぎ、見事に私達の山行は完了した。ガイドブックの通り難所続きの長いコースではあったがこの難コースに挑戦する機会はなかなかなく、まさに万歳だ。そして道迷い防止の為に登山道に撒かれた小さな紙片は今回初めて見た。やはり難しい山なのだと実感した。

3日目:朝食を済ませ8:00のリムジンバスにて畑薙駐車場へ移動。静岡にて解散。

参加者; 11名(静岡北6、静岡東1、島田2、富士宮1、他1)

天候; 雨

地図：赤石岳・上河内岳・新倉・七面山

コースタイム：樺島ロッジ（泊） 405…登山口 420…鉄塔 435…標柱 710…倉沢テント場
945…山頂 1140-55…標柱 1550…鉄塔 1700…登山口 1720…樺島ロッジ 1730

水場情報：沢 6 本あり

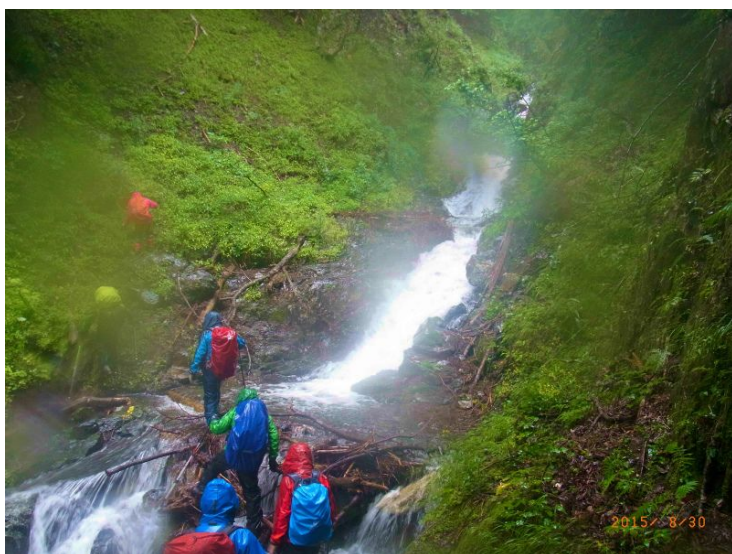
登山道：道幅狭く岩場・はしご・ロープ渡渉・急降下・急登・倒木あり

小屋情報（樺島ロッジ）：宿泊客約 40 人位・お風呂設備あり

記録：富士宮支部 石川



登山口の樺島



標柱の先に 6 か所ある沢の 3 番目の沢。策ヶ岳からの帰路。雨で水量が多い。